

“大切な花”を咲かせよう

保育所等訪問支援通信NO. R2-5



子どもの発達支援施設
つつじが崎学園

クリスマスシーズンになり、街中がキラキラと輝き始めましたね。寒さもイルミネーションのきらめきをより一層引き立ててくれています。冬空の悪天候の日は、室内で遊ぶことも増えてくるかと思えます。今回は“折り紙”の楽しみ方や、「出来た!!」と達成感を感じてもらうためのサポートを考えていきたいと思えます。子ども達の、好きなこと・得意なことが増えていくといいですね!



覚えていますか? “苦手、不器用に繋がる5つの要因”

- ① “両手がうまく使えない”
- ② “感覚の未発達”
- ③ “力のコントロールが苦手”
- ④ “ものを見る力が弱い”
- ⑤ “体のイメージが捉えにくい”

～ひと工夫と様々なケース対応～

まずは環境設定から!

体に合った机と椅子を使いましょう。深く座った状態で足の裏が床につかないようであれば足置き台を設置します。足をしっかり置くと姿勢が安定し手先の動きをサポートできます。最初は紙を固定しやすくするため、滑り止めマットがあると行いやすいです。机の天板と、折り紙の表と裏が異なった色を使用すると折り紙をしっかり見ることが出来ます。



折り目を付けようとすると、すれてしまう

最初に支援者が折り目をつけておくことで折りやすくなります。折り目を少しずつ弱めにつけておくことで、段階付けて練習することが出来ます。子ども達も『達成感』を得られやすいですし、もっとチャレンジしてみたい!という意欲にも繋がります。

図①



角と角が合わせられない

合わせる角の隅を、表面の色とは異なる色で三角に塗りつぶしておきます。図①色が付いていることで、角と角が合わせやすくなります。

指先でうまく押さえられない

指先を上手く使えない場合には、人差し指・中指・薬指の指先の腹をしっかりと触ってあげると意識しやすくなります。指先で机の上などを左右にしっかりとこすったり、平らな面ではあまり刺激を感じにくいお子さんの場合は、机の天板の辺の角を指先の腹でこすったり、色々な素材の布などをこすらせてみましょう。目の粗い布の方が、刺激が入りやすいです。

折り紙を嫌がる

角を合わせることやしっかりと折り目を付けることよりも、数回折れば何か形になる物から作り、折り紙自体を楽しめるようにします。折った折り紙にマジックなどで色付けしたり、目や鼻を付けるなどしたりして楽しんでもいいですね!



☆☆ 動作のポイントと遊びの活用法 ☆☆



角の合わせは片方の角を合わせる! 両手を使って折り紙の角を合わせようとする、紙の固定が上手くいきません。まずは、片方の角と角を意識させます。図②角を合わせる際に、下になる角の上方に上の角をすぐに合わせてしまうと、下の角が見えず、うまく合わせることが出来ません。一度、下の角のちょっと手前に上の角を置いて、そこから下の角に向けて、滑らせていくと上手くいきます。最初から左右の角をいっぺんに合わせようとする、と上手くいきません。左右両方の角を合わせなくても、片方の角を合わせて折り目を付ければもう一方の角も自然に合っていきます。

図②



タオル畳みのお手伝いにチャレンジ! タオルを畳んでみましょう。床に座り、子どもの前にタオルを縦長になるように開いて置きます。両手で下の両角を持たせ、中央で折れ曲がるようにしながら、上の角の手前まで移動させます。紙とは違ってずれにくいので角を合わせやすくなります。お子さんの様子によってタオルの大きさを調節しましょう。大人と一緒に進むと、楽しく取り組めると思えます。

参考書籍:「発達に気になる子への スモールステップではじめる生活動作の教え方」 鴨下賢一 : 著

《コロナウイルス、インフルエンザ対応について》

訪問時は、予め検温・手指消毒・マスクの着用等、最大限の対策を行い訪問致します。水分補給につきまして、訪問支援員は自身で水分を持参します。今後はインフルエンザも流行る時期になりますが、訪問先の園や当園でインフルエンザ罹患患者が増えてきた場合、双方で連絡を取り合い、訪問を延期させていただく場合があります。ご理解とご協力を宜しくお願い致します。



児童発達支援センター つつじが崎学園
地域支援事業部 保育所等訪問支援
〒400-0013
山梨県甲府市岩窪町6 1 4 番地
Tel 055-251-7678
Fax 055-251-7679
Mail ooshiba@tutuji.or.jp
担当: 吉岡かよ 大柴知子 田切美紀